にっぽん子ども・子育て応援団

NIPPON CHILDREN + PARENTS SUPPORTER

「もっと子育てしやすい社会にしたい！」と、強く願う有志たちによって、にっぽん子ども・子育て応援団は2009年5月に結成いたしました。

消費税増税に向けた動きに、「増税分から子ども・子育て支援施策の充実に向けた恒久財源を」と強く働きかけ、子ども・子育て支援新制度に向けた国の協議に積極的に参画、子育て当事者や支援の現場の実情を強く訴え、子ども・子育て支援関連法案成立及びその後の制度設計や改定にも、強く働きかけています。

結成から10年。常に現場の声を届ける姿勢は変わっていません。

現在は、これまでの取り組みに加えて、公益財団法人さわやか福祉財団からの委託による「地域まるごとケア・プロジェクト」を通じ、全国の様々な分野・職種・立場の方々に向け、地域福祉・地域包括ケアに子ども・子育ての視点を と働きかける取り組みを行っています。

世代も党派も超えたところで、全ての皆様とともに子ども・子育て家庭を応援したい。皆様からの応援が、活動のエネルギーになります。応援団ですが、応援してください！

にっぽん子育て応援団結成 10周年記念誌

もっと、みんなでなんとかしたい！

にっぽんの子ども・子育て 10 ANNIVERSARY にっぽん子ども・子育て応援団

NIPPON CHILDREN + PARENTS SUPPORTER

1

にっぽん子育て応援団結成 10周年記念誌

はじめに

にっぽん子育て応援団理事　樋口恵子

にっぽん子育て応援団が発足して10年、あの年生まれた赤ちゃんが10歳の小学校高学年。幼稚園を受けすっかりと立つ少年少女に成長しました。その間私たち「にっぽん子育て応援団」がその活動として行ってきたことは、この間における「子育て支援」対策・社会的個人的問題をひろく可視化しひろげたこと、同じ志を持つ全国の仲間たちと情報交換し、切磋琢磨する場の提供の場を作即ひろげたことと思います。

この10年、私自身が仕事と子育て両立者たちをにらむ中でまさしくが、ふと目を上げると、世の中の子育ての風景が一変したことに驚かされます。遅行子連れの若い夫婦、ベビーカーを押すのはまごうかなき父親です。休日の中くらい公園内を散歩中、折り畳んだベビーカーを右手に軽々と抱え、左手でもう子の手を引き、下の子を抱いた男性を多く語り合ったりました。出産後に職場を離脱で、10年の間隔で日本に起因したアメリカの知人からも預かりました。

女子差別撤廃条約批准の結果、家庭科の男女共修が実現したのは、中学1993年、高校1994年以降です。その人たち が30代から40代に育ちその子たちが入れたら、別視点で できれば子育ても変わることを痛感しました。1人1人の行動変容がさらに新たな意識を生む。応援団への皆様方さま、堀田力さん、男性たちの参加はまことに心丈夫でした。新しい10年に向けて「さらに楽しく」と申し上げたいと存じます。

2019年5月9日

1

にっぽん子育て応援団結成 10周年記念座談会

「もっと子育てしやすい社会の実現に向けて、にっぽん子ども・子育て応援団に改名します。」と、2009年5月に結成された、子育て当事者や支援の現場の実情を強く訴え、子育て支援関連法案成立及びその後の制度設計や改定にも、強く働きかけてきました。

政治不信が高まった、民主党政権の時代

子育て支援新制度の成立・施行

子育て・教育費の無償化の実現に向けて

**子ども・子育て関連3法案成立